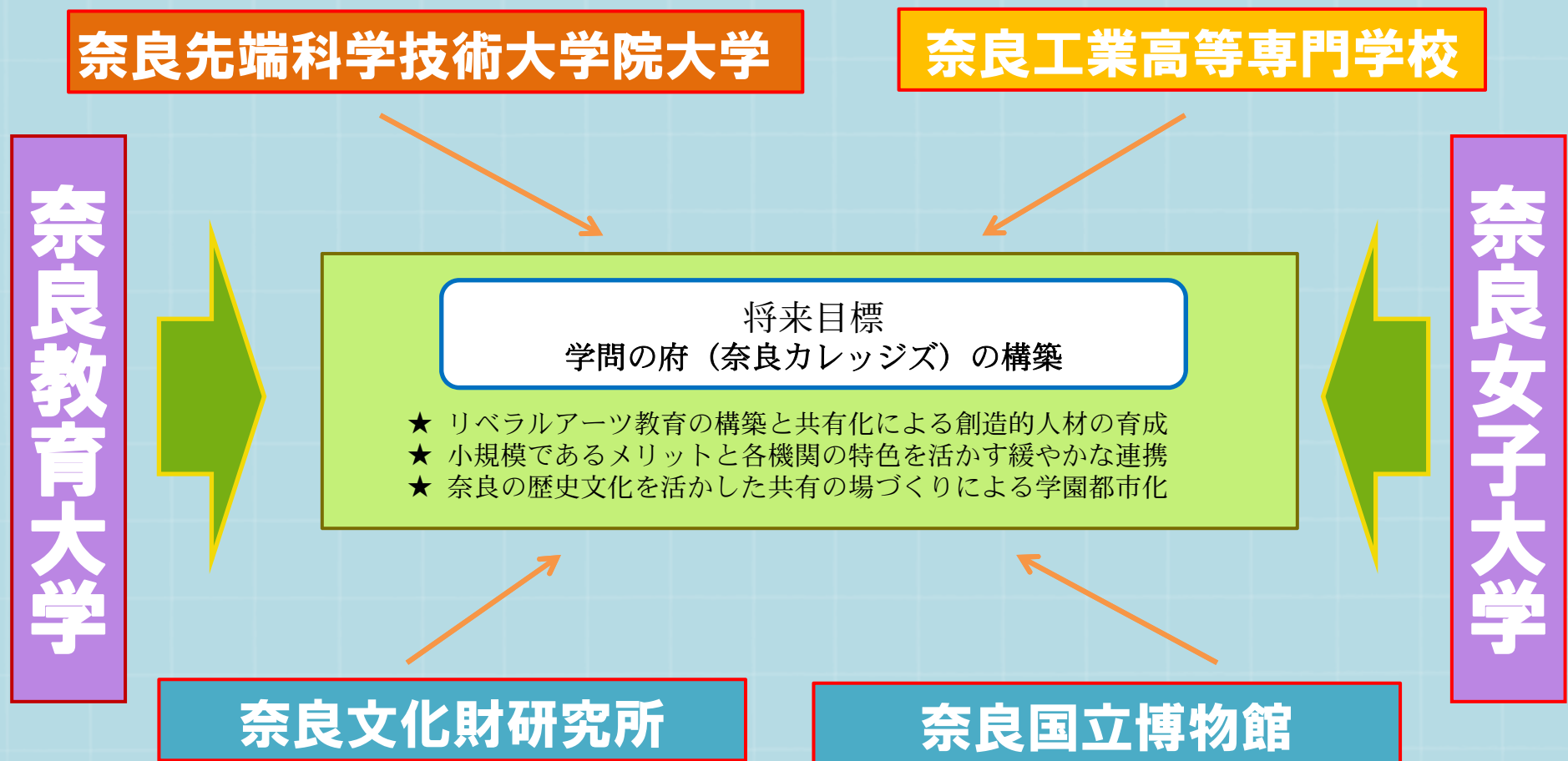


# 奈良の高等教育総合化による教育研究の学問の府の創成（素案）

～奈良を基盤とした高等教育機関を総合化し、未来社会を牽引する人材を地域・全国に輩出する～



# 奈良教育大学と奈良女子大学の連携内容

一法人二大学 国立大学法人奈良（仮称） 平成34年度を目標

両大学の資源を統合的・効率的に活用し、それぞれの強み・特色を活かすことによる、社会の要請に応えた新しい大学総合化の試み

## 機能の再構築の三本柱

連携教育開発機構（教養教育部門・教職教育部門）を設置し、三本柱を検討

教養教育の充実・強化

教員養成の高度化

奈良の地での工学人材の輩出

持続的な未来社会を  
創造する人材育成



## 教養教育の共同実施

社会の要請に応える新しい教養教育

★ 両大学の資源を統合的・効率的に活用し、社会の要請に応える「新しい教養教育」を実現

教員養成システムの  
次世代型モデルの構築



## 教員養成に係る連携

両大学の教職課程を連携して運営

★ 両大学の資源を統合的・効率的に活用し、それぞれの伝統的な強みを活かした「新しい高度な教員養成システム」を構築

工学学士の授与



## 工学系共同教育課程の設置を目指す

教養によって開かれた工学（リベラルアーツ+エンジニアリング）

★ 両大学の伝統・強み・特色を活かした工学系人材の育成

協力

奈良工業高等専門学校

協力

奈良先端科学技術大学院大学

奈良教育大学

奈良女子大学

# 一法人複数大学化

## 国の動向

### 経済財政運営と改革の基本方針2018 H30.6

(大学の連携・統合等) 大学の組織再編等を促進するため、国立大学においては、国立大学法人法を改正し、一法人の下で複数の大学を運営できる制度を導入する。私立大学については、学部単位での事業譲渡の円滑化や合併の促進など、連携統合や事業承継円滑化の環境整備を図る。併せて、撤退を含め早期の経営判断を促す経営指導の強化、破綻手続きの明確化を進める。

地方においては、地域の高等教育の在り方を議論する「地域連携プラットフォーム（仮称）」を地方大学の高等教育機関、産業界、自治体が構築できるようにする。これらの施策を進めるとともに、国公私立の枠を超えた大学の連携を可能とする「大学等連携推進法人（仮称）」の創設を検討する。

※ 一法人複数大学化は、中教審の答申（H30秋予定）を受け、平成31年の通常国会において審議・改正の予定（H32年度の施行が予定）

## 一法人二大学（化）を選択する理由 = メリット

日本の高等教育の厳しい環境（18歳人口の減少）、国の財政状況の悪化（運営費交付金の削減）の中

- ・ 2大学が持つ教育研究資源を効率的に活用
- ・ 教育・研究面の強化（競争力の強化）
- ・ 経営（運営、管理部門）の効率化を図り、経営基盤を強化
- ・ 各大学の主体性（大学名、キャンパス等）を残す



上記4点を実現するための最善策

★ 分野（専門性）が異なる大学の連携による、新たな国立大学の形を提起できる！

# 奈良教育大学と奈良女子大学の連携内容

## 教養教育の共同実施

### 奈良教育大学

#### 現状

社会と文化

人間と科学

教育とキャリア

#### 【特色】

- ・ESD（「持続可能な開発のための教育」）関連科目を含む
- ・教育関連の科目を多く含む
- ・双方向遠隔授業システムによる、教員養成大学間での学び合い

### 奈良女子大学

#### 現状

「パッセージ」

教養コア科目

#### 【特色】

- ・5つの問いと7つのアプローチ
  - 「5つの問い」= 大学ならではの学びとは？ / 女性ならではの知とは？ / 奈良での学びを通じた世界への貢献とは？ / あなたと未来世代にとっての学びの意味とは？ / よく生きるために必要な知と技とは？
  - 「7つのアプローチ」= 知の創造に参加する / 社会的実践に飛び込む / 本物に触れる / 背伸びする / しっかり書く / 問いをあたためる / 他者と学ぶ・他者から学ぶ・他者を学ぶ

### 連携後

#### 目的

両大学の資源を総合的・効率的に活用し、社会の要請に応える新しい教養教育を実現する

#### 方法

検討・開発組織（新設）

検討事項

連携教育開発機構  
（教養教育部門）

- ・予測困難な今後の社会を生きる全ての人間にとって必要な教養とは何か？
- ・持続可能な社会を創造するために必要な教養とは何か？
- ・教育人材、理学人材、工学人材等として必要な教養とは何か？
- ・「奈良の地」でこそ学ぶことのできる教養とは何か？
- ・異分野を専攻する学生・教員の協働スタイルはどのようなものが考えられるか？

#### 成果

教員養成、工学人材養成等、高等教育における新しい教養教育モデルの構築と実践  
→学問の府（奈良カレッジズ）のネットワークの中核とする

①「奈良」についての真の理解、②奈良文化財研究所、奈良国立博物館を場に市民を巻き込んだ学び合い、③学生の視野やコミュニケーション能力の拡大、④文化・研究成果の発信、⑤感性、創造性、想像力、アート、芸術性に富んだ人材の輩出、⑥ESD 等、H31年度より順次実施

# 奈良教育大学と奈良女子大学の連携内容

## 教員養成に係る連携

### 奈良教育大学

#### 現状

##### 【強み】

- ・実践的な力量形成（教科教育法等）
- ・教育委員会との連携
- ・教育に関わる基礎的・応用的な学問研究
- ・子ども理解に関わる実践や研究
- ・現職教員研修・教育に関わる地域貢献
- ・特別支援教育（インクルーシブ教育）
- ・芸術系教育・伝統文化教育 等

### 奈良女子大学

#### 現状

##### 【強み】

- ・開放制ならではの教科専門教育
- ・教育の基礎となる高度な諸学問研究
- ・附属における中高一貫教育
- ・附属におけるアクティブラーニングの伝統と実績
- ・教員研修学校としての附属との密接な連携 等

#### 連携後

##### 目的

両大学の強みを活かし、「新しい高度な教員養成システム」を構築する

##### 方法

検討・開発組織（新設）

検討事項

連携教育開発機構  
（教員養成部門）

- ・少子化社会に立ち向かい、今日的な教育課題に対応できる教員養成の方略
  - ・両大学の教職課程で専任教員を共有する可能性
- ・奈良教育大学生にとって、より教科に関する専門性を高める方略
  - ・奈良女子大学生にとって、より教育実践力を高める方略
- ・多様な強みを持つ附属校園の活用

##### 成果

**2つの教師像 “academician” と “educationalist” の高度な統合を図る。**

①「新しい教養」（感性、創造性、想像力、アート、芸術性等）を身に付けた教員の養成、②「奈良」についての真の理解と指導力を持つ教員の養成、③専攻する領域を超えた広い視野と異分野の人々との高いコミュニケーション能力を持つ教員の養成、④奈良高専卒業生の編入、⑤奈良高専、奈良文化財研究所、奈良国立博物館との協働プログラムによる学修経験、⑥両大学の教職課程で専任教員の共有、等



# 工学

リベラルアーツによって問題発見能力と創造力を具えた、社会・技術・産業の未来を開くエンジニアを育てる。

1年・前期 > 1年・後期 > 2年・前期 > 2年・後期 > 3年・前期 > 3年・後期 > 4年・前期 > 4年・後期

## リベラルアーツ 基盤コース

ライティング・技術倫理・デザイン学・産業社会学・起業論・知的財産論の12単位

## リベラルアーツ 基盤演習

(批判的思考、芸術的創造)

## 教養分野

## 理工学分野

## エンジニアリング 基礎演習

(プロトタイプ設計、モデリング+制御)

文系学生補講関連科目

## STEM教育

解析学・線形代数・集合論・統計・物理・化学・生物・コンピュータ系3科目・機械工学入門・電気工学入門・材料工学入門の30単位

## リベラルアーツ 発展コース

哲学系・芸術系・人文地理系・文化人類学系・人間科学系・歴史系・教育系・文学系・言語系・法学系・経済系・政治系の12分野から5分野10単位を選択履修

## リベラルアーツ発展演習 (ユーザー指向開発、社会改善の起業)

## エンジニアリング発展演習 (メカトロニクス設計、素材開発)

## リベラルアーツ集中コース

左記の分野から1ないし複数分野を12単位選択して、工学分野と連携した研究をする。

## 専門課程

### 工学デザイン学科

深い教養があり、異分野との交流に長け、様々な能力をバランス良く獲得して、工学系諸分野のプロジェクトリーダーになれる人材を育てる

### 工学科

新しい技術とニーズの開発を得意とする、エンジニア・イノベーターを育てる

36

10

外国語・体育・他

## 卒業研究・ 産学連携課題解決演習

(スポンサー提供問題解決型グループ演習)

50

34

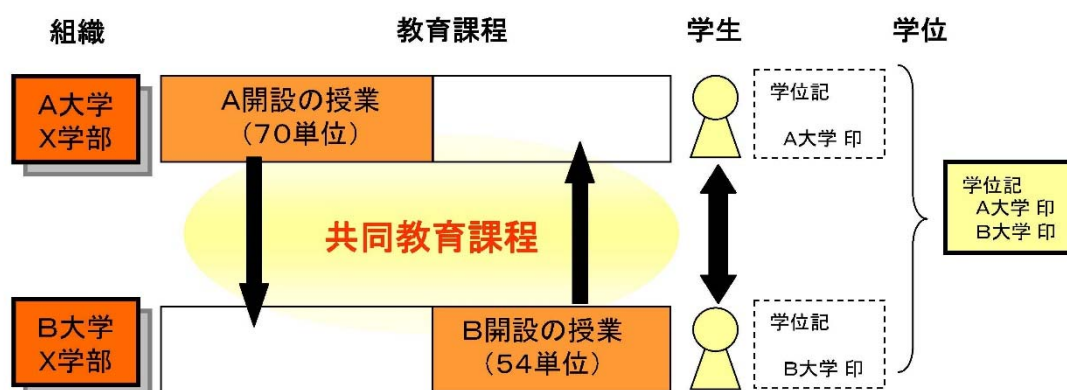
注：太枠は必修。

## 大学における教育課程の共同実施制度（共同教育課程）

### 制度の趣旨

- 経済・社会のグローバル化の中、大学は「知の拠点」として各地域の活性化への貢献とともに、国際的な大学間競争の中で新たな学際的・先端的領域への先導的な対応も必要。
- このため、複数の大学がそれぞれ優位な教育研究資源を結集し、共同でより魅力ある教育研究・人材育成を実現する大学間連携の仕組みを整備するもの。

### 学部段階の場合のイメージ



- 構成大学のうちの他の大学における授業科目の履修を自大学の授業科目の履修とみなす。
- 各大学で31単位以上取得する必要がある。

### 学生の在籍

- 学生はいずれか1つの大学に本籍をおく。また、学位は構成大学が連名で授与する。

### 教員の身分

- 教員は、原則として構成大学のいずれかの大学に所属する。

### 収容定員

- 各構成大学ごとに収容定員を定める。

### 既に実施している大学（学部）

- 帯広畜産大学（国立）・北海道大学（国立） 共同獣医学課程
- 岩手大学（国立）・東京農工大学（国立） 共同獣医学課程
- 鹿児島大学（国立）・山口大学（国立） 共同獣医学課程
- 岐阜大学（国立）・鳥取大学（国立） 共同獣医学課程

### 授業形態

- テレビ会議システムを活用
- インターネット上での資料配付等